

普賢菩薩対面の松古墳

そしてここが「普賢菩薩対面の松古墳」です。1000年前に普賢寺を開いた性空上人(しょうくうしょうにん)が、生身の普賢菩薩を拝みたいと願っていると、夢枕で「周防の室積に行けば会える」とのお告げがあり、室積に足を運ぶと、網で引き上げられた普賢菩薩に直面することができたそうです。ここが性空上人と普賢菩薩の対面した場所であることから、この名前が付けられました。性空上人の事跡を偲ぶために植えられたという松は、江戸時代中期の大火で焼失してしまいましたが、地元の人たちはそれを植え継ぐとともに、碑を建立しました。現在の松は3代目だそうです。



普賢菩薩対面の松古墳

専光寺

ここは、室町時代から外国の使節を迎える館として使用されていたという「専光寺」。このお寺には大変珍しい菩薩がある聞き、ぜひ見てみたいとお堂に入りました。



専光寺



光ふるさと郷土館

た。阿弥陀如来の後ろにある二十五菩薩来迎木彫図(ぼさつらいごうもくちようず)のすばらしさに、足を踏み入れた瞬間、目を奪われてしまいました。これは皆さんも必見です。

光ふるさと郷土館と別館

「海商通り」の核となる「光ふるさと郷土館」では、北前船の関係資料や醤油の醸造道具などを展示し、港町室積に生きた人々の生活や文化を紹介しています。建物は、明治初期に建てられた町家づくりの商家で、俗に「うなぎの寝床」(一口メモ)と呼ばれる造りになっています。

観光ボランティアガイドの案内

コース 海商通りとその周辺を無料でご案内します。
出発時間 随時
所要時間 1時間程度
申し込み 3日前までに予約をお願いします。
申し込み先 室積観光案内所 0833(79)3308または光ふるさと郷土館 0833(78)2323

本館は江戸時代後期から昭和30年代にかけて醤油屋を営んでいた磯部家を修復したもので、室積から朝鮮半島の北端まで航行したといわれる打瀬船(うたせぶね)や、海産物などを運んだ北前船の模型もあり、船で商品を流通させる回船業と漁業で栄えた歴史を物語っています。
展示物の中で私が最も興味をもったのは、船筆筒(ふなだんす)です。これは桐でできており、水に浮き、ぬれても水分を吸収して膨張します。そうすることで船筆筒は密閉状態になり、書類や貴重品などを水から守る仕組みになっているそうです。

ボランティアガイドさんにインタビュー



「海商通り」はほっとできるオアシスのようなところです

室積観光ボランティアガイドの会
松井須賀子さん

室積の歴史を知って帰ってもらえることが私の喜び郷土を知ろうと行われていた勉強会で3年間勉強をし、その後ガイドを始めました。室積に古い歴史があったことを知って帰ってもらえることがうれしいですね。特に、後日お礼のハガキをいただいた時には、本当にボランティアガイドをやっていてよかったと感じます。

観光に来られた方々をすぐに案内してあげられる。そんな体制をつくりたい。

現在、ガイドを希望される方は、3日前までに予約をしていただかなくてはなりません。しかし、海商通りに来られるすべての皆さんが、ボランティアガイドがいることを事前に知って来られるわけではありません。きちんと観光ボランティアの事務所を構え、観光に来られた方に、いつでも案内をしてあげられるような体制がくれたらいいなと思います。これが私の夢です。

専光寺から見た「海商通り」の鳥瞰図



Koai